

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 大阪屋道修町ビル3F
 06-6232-1095

安倍政権の行方と政治革新の展望 〈16回総会・講演会に114名参加〉

10月16日(水)南御堂会館において、大阪損保革新懇結成15周年・第16回総会・講演会を開催し、114名が参加しました。志賀守孝事務局の司会で始まり、野村英隆代表世話人の開会挨拶のあと、富田宏治さん(関西学院大学法学部長)が、「安倍政権の行方と政治革新の展望」と題し講演しました。その後、「小畑裕久さんの職場復帰を実現する会」会長の張間恵樹さんが、「損保産業の現状と雇用責任」について報告、小畑さんが決意表明を行いました。総会議事では、野口英機事務局長が各種報告と新年度世話人提案を行い、総会アピール「安倍政権の暴走を許さない！革新懇運動の前進で『状況を創ろう』」を全員の大きな拍手で採択しました。総会后、恒例の居酒屋「木温(こはる)」での懇親会には72名が参加。講師の富田宏治さんも出席され、職場の枠をこえてなごやかに歓談しました。

講師：富田 宏治さん

関西学院大学法学部長
 原水禁世界大会宣言起草委員長

〔講演要旨〕

みなさんこんばんは。ご紹介いただきました富田です。「安倍政権の行方と政治革新の展望について」お話しします。安倍さんは「日本を取り戻す」と言い、臨時国会の所信表明演説では「わが道を行く」と叫んでいます。今や歴史の曲がり角にきています。

自民党は本当に勝ったのか？

考えてみたいのは、選挙で本当に自民党が勝ったのかということです。確かに議席は公明党とあわせて300以上となり、衆議院の3分の2を超えて、参議院で否決されても再可決可能となりました。参議院で過半数をとったので与党でなんでも通せる議席を確保したわけです。

しかし得票数でみると大敗した前回総選挙(2009年)よりも比例票で200万票以上を減らしました。選挙区でも200万票近く減らしています。民主党にコテンパンに負けたときよりも得票数を減らしてとった300議席だということです。

比例の得票数は全有権者比でわずか16%です。自民党への支持は全然回復していません。小選挙区制度という欠陥に満ちた選挙制度による300議席獲得なのです。政権は取り戻したが、国民の



講師の富田宏治さん

支持・国民の票は取り戻せなかったのです。

今度の参議院選挙の特徴は、自民党はこりこり民主党にも裏切られた、ましてや、期待した維新の会・橋下徹氏はあまりにひどく3年もたってみれば辟易として、結局1000万票~2000万票が行き場所を失ったということです。

民主党にも維新の会にも行かず、彼らが減らした1000万票がどこに行くかでこれからが決まります。この受け皿をどうつくるか、メディアが煽る「風」に流されなくなった人たちをどうするかが問題です。

一部が共産党に行き躍進しましたが、多くの人たちが行き場を失っているのが現状です。風に左右される政治から、もっと地道な組織戦、陣地戦という時代に今、日本が入ったと思います。

(P・2へつづく)

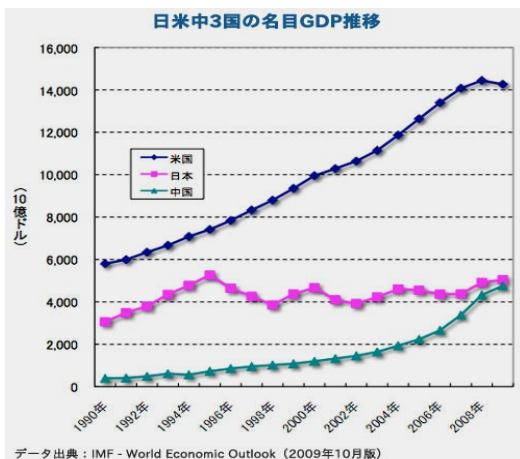


(P・1よりのつづき)

日本型「企業国家」の機能不全

20世紀後半から日本型「企業国家」が長い断末魔に入っています。経済大国日本が1990年初頭にバブル崩壊があり、それ以降何をやっても回復せず機能不全に陥っています。東日本大震災、福島原発の事故を経て、日本の国家の無能さを思い知らされました。

GDPは伸びていません。アメリカは2.6倍、中国は25倍ですから追い越されるのは当たり前です。GDPを増やす名目で20年間注ぎ込まれた公共事業は1000兆円ですが、それでも成長していません。



蓄積された国家の負債は1200兆円という膨大な額となっています。こんなに借金をしてなぜ成り立っているかといえば日本の金融機関に国民が預けている金融資産が1500兆円がありこれが担保となっているからです。

国家予算規模90兆円に対し税金は半分の42兆円。支出は倍以上あり毎年国債で返済にあてています。社会保障費が公共事業よりも少ないのは日本だけです。社会保障費が日本の3倍近いアメリカの公共事業費は日本の3分の1以下です。イギリスは社会保障費が公共事業費の10倍ですがこれが普通の国家です。

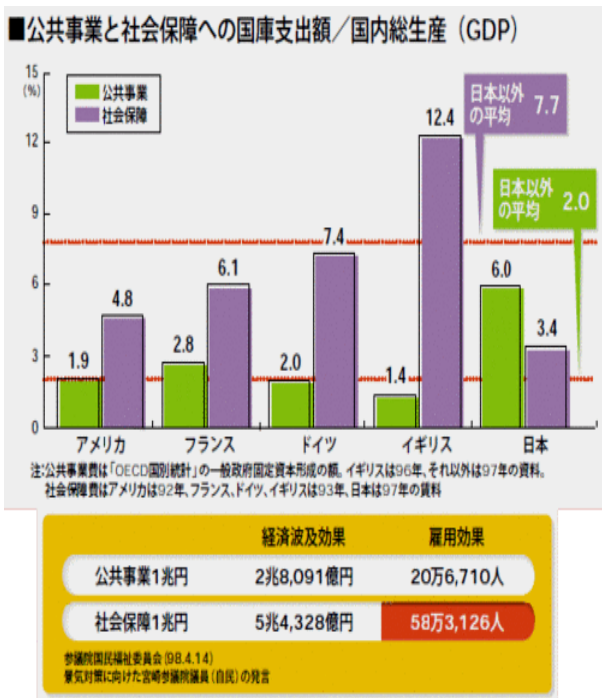
日本の軍事的安全保障はアメリカに依存し、従属するしかありません。しかしそれでも、普通の国家ならどんなことがあっても絶対譲らないのが食糧の自給です。輸入に頼らないで国民が飢えたりしないようにするのが国家なのです。

経済的安全保障としての日本の食糧の自給率は40%ぐらいですが、TPPをやれば14%になります。「日本を殺すにや刃物はいらぬ、海上封鎖してしまえば日本国民が飢え死にする」ということです。

まだ米の40%を自給していれば米だけで食いつながることができるかもしれないが、それもなくなれば・・・それこそ何にも残りません。エネルギーは1%ぐらいだから危機管理は全く脆弱です。

(P・3へつづく)

(P・2よりのつづき)



社会保障費は、80年代はGDPに対し15%しかありませんでしたが、高齢化して大変だと言いながら、ようやくアメリカ並みの2.0%になりました。それでもヨーロッパの3分の1です。

20年間で景気がよくなるのに国民の貯金は300兆円増えています。社会保障に頼れないから国民は貯金をして生活を防衛しているのです。それまで脆弱な社会保障は企業が代行していました。年金も健康保険も企業が半分負担していました。

それが重たいからといって90年代以降、正社員を減らし非正規社員を増やす政策を政府・財界がとってきたことが今日本に深刻な事態をもたらしています。

日本は、税金を開発公共事業として土木・建築につぎ込んできました。使わない空港一関西ではあまり利用しない神戸空港や定期便が飛ばない空

港一を97もつくり、ダム・高速道路・新幹線の建設など産業政策のもとに大企業を優遇して成長させていく政治を行ってきました。政・財・官が利権を分け合う利権政治として自民党政権によってすすめられてきたのです。

米国への依存・従属

90年代になってソ連が崩壊し、東西冷戦の終結によってテロとの戦争という新しい段階に入りました。アメリカは国力の限界により、同盟国に応分の負担を要求し、日本にも肩代わりさせようとしています。

で、今まさに安倍内閣が追いつめられ、アメリカにこたえねばならないとなっているのです。憲法9条の改定もうまくいかず、96条からすすめようとしたがそれもうまくいっていません。

小泉内閣が日本国家の危機からの脱出として新自由主義的改革、市場万能主義的改革を打ち出し、「改革なくして成長なし」「官から民へ」と言って規制緩和を推進してきました。

郵政民営化は結局アメリカの要求によって、アメリカンホームダイレクトとかアフラックとかを日本市場に参入させるために、郵便局と簡保を切り離す構造改革だったわけです。

労働市場の改革では、製造業派遣を解禁し非正規労働者を一気に増大させて、2008年の非正規派遣切りの悲劇へと突き進んでいきつかけをつくりました。

政権交代とは何だったのか？

小泉構造改革の帰結は「連帯」「協同」「助け合い」などをダサイものとして否定する社会的雰囲気をつくり、自己責任を蔓延させたことです。

そして、小泉構造内閣に疲れ切った国民に、国民の生活が第一というスローガンで現れた民主党への政権交代となりました。

(P・4へつづく)



(P・3よりのつづき)

日本社会を変えてくれるのではないかと期待したわけです。

しかし、日本型企业国家のあり方を変える政策を打ち出しながら、結局それを全部裏切ったのが民主党です。その結果、3000万票とった民主党は900万票に落ち、今度の参議院選挙では700万票と、国民から完全に見放されたわけです。

その後、小泉ポピュリズムのバージョンアップを図る愚かな男が現れますが、堺の市長選で止めがさせられました。二度と彼らは浮上してこないと思います。新自由主義とポピュリズムの合同に加え、さらにナショナリズムで煽って、その挙句従軍慰安婦発言で自らぶっ壊れていったわけです。

不安で孤独でどうしようもなく追いつめられている人たちの、じっくり考えることができない、余裕のない気持ちを逆手にとって、俺にまかせろ、白紙委任しろと迫って獲得した票でした。そういう人たちは強い指導者に憧れます。その期待を一身に集めようとしたのですが、その夢もついに潰え去ることとなります。

安倍政権の10か月

安倍氏はそういう中で政権に浮上しましたが、1840万票が最大で、これが限界です。あとは票を減らすことしかできません。参議院選挙時点がピークであとは坂道を転げ落ちるだけです。

アベノミクスというのは人為的にバブルをつくるだけですので結局出口がなくなる、撤退しようとした瞬間に崩壊してしまうわけです。

消費税を導入すれば景気が腰折れすることは間違いない。けど増税しなければ国際公約違反となります。

TPP交渉も、アメリカ言いなりに踏み込んでしまったので5項目の聖域を守れない。

生活がかかっている農民の人たちや医療関係の人たちにとってとてつもない内容ですので、必ず大きなしっぺ返しが来ます。さらに歴史認識の問題が中国、韓国との関係を悪化させてしまいました。オリンピックで一番の蹉跌は「福島はコントロールできている」という国際公約ですね。あとから凄いいしっぺ返しとして彼に跳ね返ってきます。

安倍・自民党への対抗軸の形成を

行き場を失った人たちを、本当に対面的な政治対話によって人間尊重の立場に変えながら、政治活動を進めていく、それは革新懇の課題だと思います。その時に必要になるのは対抗軸を形成していくことです。

小泉改革でバラバラになって連帯とか協同とかがダサイと思った人たちが、やっぱり絆は大事にしようと言いだしたと、これが私たちのもっとも重要な手がかりだと思います。

そういうものを手がかりにして、アベノミクスとは別の方向で、日本社会をどう立て直していくのかということをお互いに対話し、政治改革の展望を切り開いていきたいと思っています。

(文責 事務局)

革新懇全国交流会IN大阪

11・16(土) 全体会 会費 500円
pm 1:30~5:30 堺市民会館にて
(南海・高野線「堺東駅」下車)

11・16(土) 損保交流集会 会費 2,500円
pm 6:30~ アイクルの部屋にて
(右記地図参照)

11・17(日) シンポジウム 会費 500円
am 9:00~12:00 「職場革新懇運動をどうすすめるか」

パネラーは全日空・西武鉄道・山梨教職・大阪国公の他、損保から松浦章さんが登壇します。
エルおおさかにて
(京阪または地下鉄谷町線「天満橋駅」下車西へ300m)

[アイクルの部屋]へのアクセス

